

池田市埋蔵文化財発掘調査概報

1993年度

1994年3月

池田市教育委員会

序 文

大阪府の北西部に池田市は位置しています。この場所は、緑豊かな五月山と雄大な猪名川に育まれ、このような豊かな自然環境の中、古代から政治、経済、文化の中心として池田は発達して参りました。また、近年、この地は陸、空の交通の要衝として、あるいは、大阪のベットタウンとしても開発が行われ、多くの住宅が建築され大きく様相が変わりつつあります。

このような開発、発展とは裏腹に、我々の祖先が久しく伝え残して来た文化遺産や自然が破壊されつつあります。かつての面影が忍ぶことができないほど様がわりしたことも事実であり、文化遺産や自然是一度破壊されると二度と復元することはできません。私たちはそのことを十分認識し、保護と継承に努めなければなりません。

この報告書は上述した状況の中、破壊の危機に面している埋蔵文化財について、国並び、大阪府の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の継承、理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くのご教示、ご助言をいただきました諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して格別のご理解とご協力をいただきました。心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成6年3月

池田市教育委員会

教育長 西山幸男

例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成5年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50%、府費25%）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 本年度の調査および期間は下記のとおりである。

池田城跡第28次	池田市城山町2047・37-1・3227-2	平成5年10月5日～10月24日
神田北遺跡第8次	池田市神田1-1355～2～3～4	平成6年1月24日～1月27日
3. 調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課文化財係が実施し、中西正和が現地を担当した。
4. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては 辻美穂、森季子の協力を得た。
5. 本書で使用する上巻の色調は、『新版標準上色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修）による。
6. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々に深勘なるご理解、ご協力をいたしたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目 次

I. 歴史的環境	1
II. 池田城跡28次発掘調査	5
III. 神田北遺跡 8次発掘調査	10

図 版

池田城跡第28次発掘調査

- 図版 1 (1)調査地状況（南から）
(2)調査地状況（北から）
- 図版 2 (1)第1トレンチ全景（北東から）
(2)第1トレンチ南端（東から）
- 図版 3 (1)第2トレンチ（南から）
(2)第3トレンチ（西から）

神田北遺跡 8次発掘調査

- 図版 4 (1)トレンチ全景（東から）
(2)同上（南から）

挿 図 目 次

第1図 豊島南遺跡方形周溝墓	1
第2図 遺跡分布図	2
第3図 妻一墓古墳	3
第4図 豊島南遺跡竪穴式住居跡	3
池田城跡28次発掘調査	
第5図 調査地位置図	5
第6図 トレンチ位置図	6
第7図 第1トレンチ平・断面図	7
第8図 第2トレンチ断面図	8
第9図 第3トレンチ断面図	8
第10図 出土遺物実測図	9
第11図 溝齊地断面図	9
神田北遺跡8次発掘調査	
第12図 調査地位置図	10
第13図 トレンチ位置図	11
第14図 トレンチ平・断面図	12

I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域を有している。その位置は、西摂平野の北部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

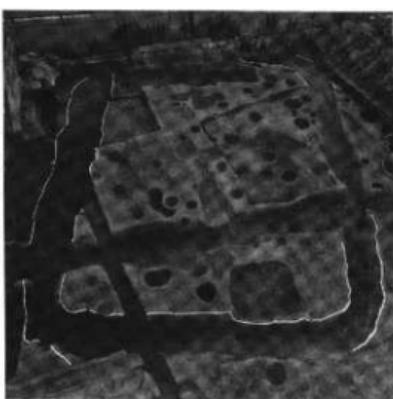
池田市の地形をみると、市域のほぼ中央に五月山塊が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山塊より南には、標高50~100mの緩やかな五月山丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかにされている。

旧石器時代

現在のところ旧石器時代に関するものは希薄である。遺物が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡と宮の前遺跡（螢池北遺跡）が挙げられるが、遺構に関しては未確認である。伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山塊西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器、尖頭器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和期から旧石器が収集され、また、発掘調査では、昭和61年度の大阪府教育委員会や平成元年度の豊中市教育委員会による螢池北遺跡で国府型ナイフ形石器が出土している。

縄文時代

上記した伊居太神社参道遺跡において、縄文時代のサメカイト製の石器が、五月山丘陵に位置する京中遺跡ではサメカイト製の石器・石匕が採取され、また、近隣の畠ではサヌカイト製の尖頭器が採取されている。一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石器・石匕が、宮の前遺跡では石棒が採取されている。近年の発掘調査においては、池田城跡下層から晩期の生駒西麓窪突帯文土器が出土し、また、豊島南遺跡で後期から晩期の上器が出土している。しかし、出土した土器は少量で、また、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落等の規模・性格等は明らかではない。



第1図 豊島南遺跡方形周溝墓



- | | | | |
|------------|--------------|---------------|----------------|
| 1. 駿・瀧道跡 | 2. 古江古墳 | 3. 古江北古墳 | 4. 吉田遺跡 |
| 5. 古江遺跡 | 6. 木原遺跡 | 7. 木原：号墳 | 8. 木原：2号墳 |
| 9. 木原桃山古墳 | 10. 寶宮神社遺跡 | 11. 伊勢太神社參道遺跡 | 12. 五三堂古墳 |
| 13. 四三堂南古墳 | 14. 清田城跡 | 15. 清田桑白山古墳 | 16. 五月・丘古墳 |
| 17. 銀閣北遺跡 | 18. 善海1号墳 | 19. 善海：2号墳 | 20. 石橋萬寺 |
| 21. 新堀西遺跡 | 22. 桐原古墳群出土地 | 23. 京中遺跡 | 24. 夏頭池遺跡 |
| 25. 野田塚古墳 | 26. 錦織古墳 | 27. 休家南遺跡 | 28. 猫塚古墳 |
| 29. 石巻古墳 | 30. 二子吉古墳 | 31. 神坂寺遺跡 | 32. 宇都御名御彦神社古墳 |
| 33. 宇都遺跡 | 34. 神田北遺跡 | 35. 萩塚古墳 | 36. 門田遺跡 |
| 37. 神田南遺跡 | 38. 天神波跡 | 39. 善島南遺跡 | 40. 住吉宮の削造跡 |
| 41. 宮の削造跡 | 42. 特豪山遺跡 | | |

第2図　遺跡分布図

弥生時代

弥生時代前期の遺跡は、五月山北麓に位置する木部遺跡が挙げられる。当遺跡は工事中発見された遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は不明であるが、弥生時代前期から後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。弥生時代中期においては、台地上の位置する場所に遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設にともない発掘調査が大規模になされ、方形周溝墓、竪穴式住居跡、土壙墓等の造構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月山の丘陵上に位置する池田城跡下層、鼓ヶ滝遺跡、京中遺跡、愛宕神社遺跡等の遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベット状造構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡においては、竪穴式住居跡、土坑が検出されている。全体的に後期に入ると集落は五月山の丘陵に散らばり、小規模化する。

古墳時代

池田市内の前期古墳は、池田茶臼山古墳と娘三堂古墳が挙げられる。共に竪穴式石室を有する。池田茶臼山古墳は五月山塊より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、葺石、埴輪列が検出されている。娘三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、石室内からは画文帶神獸鏡が出土した。平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土塚が存在することが確認されている。中期では高塚式の古墳はなくなり、かわって、低墳丘古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。後期では善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。



第3図 娘三堂古墳



第4図 豊島南遺跡竪穴式住居跡

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡・木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では石留式の土器を伴う焼尖住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。後期に入ると少しはあるが、検出遺構も増し、宮の前遺跡では竪穴式住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴式住居跡、溝が検出されている。

歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝跡が検出されおり、豊島南遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡や円面鏡が検出されている。また、神田北遺跡では奈良時代の掘立柱建物跡が検出されている。寺院跡としては白鳳・天平時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出され、後白河院領として開発が推進された呉庭莊と関係するものとも考えられる。室町時代から戦国時代には、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから張津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、ついには、元臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山塊から南方へ張り出した台地上の南麓に位置し、現在でも土郭は土塁や空堀が良好に残る。昭和43・44年に土郭部の一部が調査された際、礎石を作り建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年からの調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、埠列建物跡等を確認している。

参考文献

- 坂口重雄「地形と地質」『池田市史』各編 1960
- 富田好久「考古学上に現れた池田」『新編池田市史』概説篇 1971
- 橋高和明『原始・古代の池田』池田市立池田中学校地歴部 1985

II 池田城跡発掘調査

はじめに

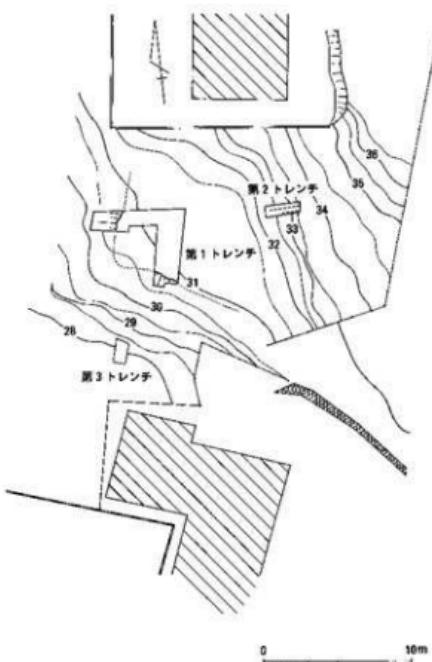
池田市の城山町、建石町一帯に広がる池田城は、戦国期を中心とする国人池田氏の居城である。池田城跡は五月山塊から張り出した、台地の西縁辺に立地し、その場所からは、旧池田村を眼下に置くことができる。そして、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することができ、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選ばれていたことが判る。

池田城を築城した国人池田氏の出自については明らかではないが、14世紀中頃の文献からその名が散見されるが、その数は少なくそのころの池田氏に関する詳細は不明である。15世紀



第5図 調査位置図

後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、莊園経営や高利貸経営により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るに至った。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入図に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下になった。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。現在でも池田城跡の主郭部は、土塁と空堀が良好に残り、当時の面影を少しは窺わせるが、城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43、44年に主郭部の一部が発掘調査がなされ、遺物跡に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園跡、落城に伴う焼上層等が検出された。また、平成元年～4年に



第6図 トレンチ位置図

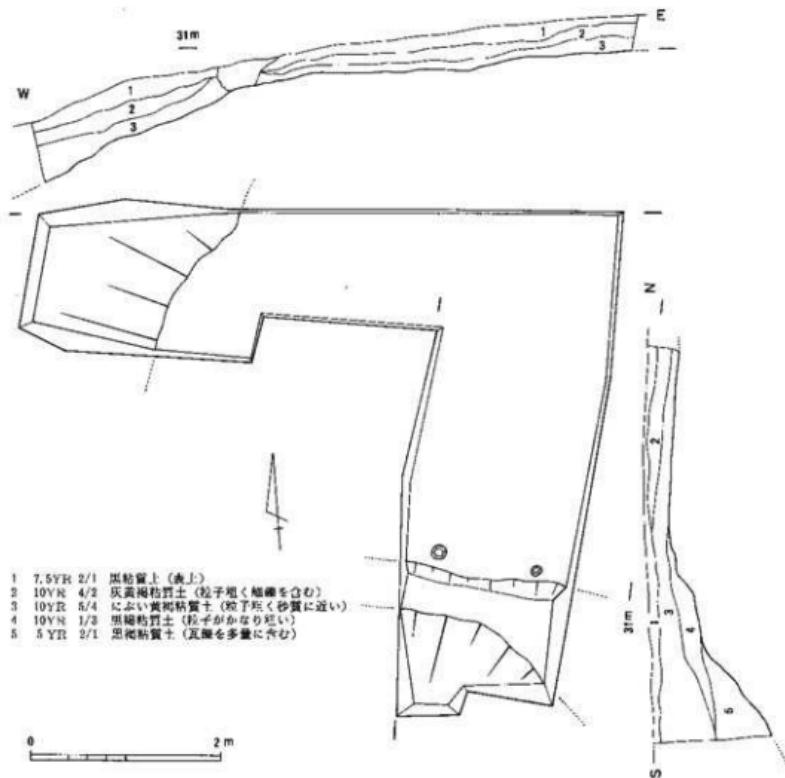
実施された発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物跡、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる壇列建物跡等が検出された。一方、主郭部外の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手門が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しずつであるが城の全容が解明しつつある。また、池田城以前の時代についても明らかになりつつあり、昭和60年の大阪府教育委員会による調査では弥生時代後期の土器、弥生時代後期の竪穴式住居跡、古墳時代中期の土坑が検出されおり、平成3年の池田市教育委員会による調査では、庄内期のベット状遺構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。

調査の概要

今回の調査は池田市城山町2047-37-1・3227-2において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査地は栄本町一帯の平野部から西の五月山へ連なる裾部に位置し、現状においても平坦部や段が良好に残る。発掘調査の実施にあたり上段の平坦部に遺構の有無や、堀切の状況把握のため、L字形のトレンチ（第1トレンチ）、その平坦部から東へ立ち上がる段面に段の状況把握のためのトレンチ（第2トレンチ）、また、第1トレンチより、一段下がる平坦部に、深度の把握のためのトレンチ（第3トレンチ）を設置し、調査を実施した。

第1トレンチ

L段の平坦部に設置したL字形のトレンチで、面積は約14m²を数える。基本層位は第1層は表土、第2層は近世以降の遺物を含む灰黄褐色粘質土、第3層は黄褐色粘質土の地山である。



第7図 第1トレンチ断面図

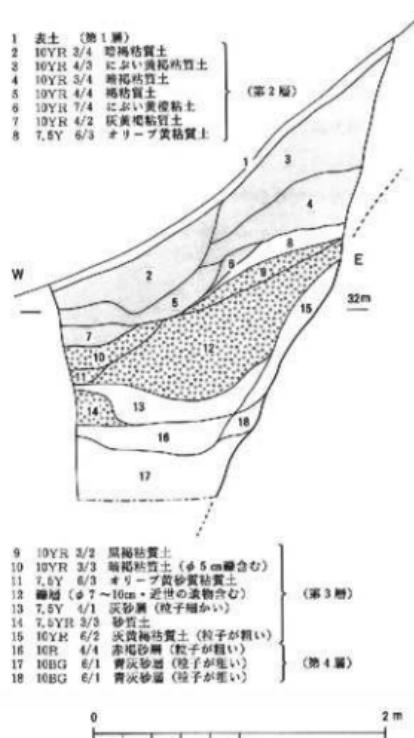
平坦部の高さは30.7m前後で、トレンチ両端において落ち込み（堀切）を確認した。L字南端の堀切は良好に残るが、西端はなだらかに傾斜する。また、L字南端において堀切に沿って直径16cm前後のピット2個を確認した。その2つのピットは間隔1.1mで並び、防護のための柵列と考えられ、その平坦部（曲輪）の沿いに連なっていると考えられるが、西端においては確認できなかった。

第2トレンチ

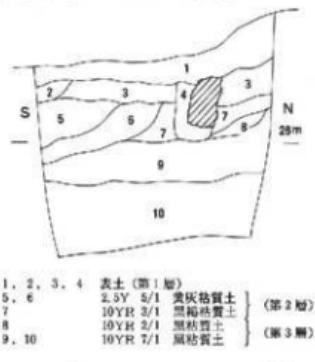
上段の平坦部東端で上段の立ち上がる段の裾部に設置したトレンチで、面積は約2m²を数える。基本層序は第1層表土、第2層黄褐色粘質土、第3層黒褐色砂質土、第4層は青灰色砂質土に分けられる。トレンチ東端からは約61度の傾斜をもつ段の端を確認したが、段の底部は高さ30.7mまで掘り進んだが、上層は第4層の青灰色砂質土で、調査トレンチの関係上それより下層は確認できなかった。しかし、平坦部の底面とは考えられず、また、第1トレンチの平坦部の高さは30.7mであることから、段に沿って溝が設けられている可能性がある。

第3トレンチ

第1・第2トレンチの曲輪から南へ一段下った場所に設置したトレンチで、面積は2m²である。基本層序は第1層表土、第2層黄褐色粘質土、第3層は黒色粘質土、第4層は黄褐色粘質土の地山である。第1・第2トレンチの曲輪へ上がる段は確認できなかったが、第4層の地山の高さは25.4mを数え、その曲輪の高さは約5m近くあることが分かる。



第8図 第2トレンチ断面図



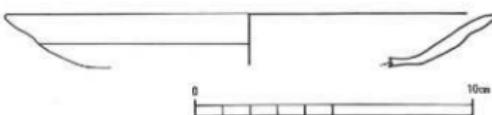
第9図 第3トレンチ断面図

出土遺物

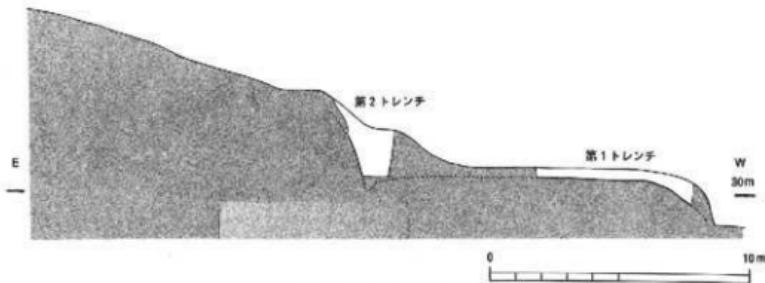
各トレンチとも近世に関する遺物は出土したが、池田城が存続する時代に関する遺物は極少

量であった。そのことは、調査場所あるいは曲輪の性格上からの問題と考えられる。第10図は第2トレンチの第2層から出土した土師質皿である。復元径は16.6cmで、外面上半および内面はヨコナデ、外面下半は指押さえの痕跡がのこる。

今回の調査では、杭列、堀切が検出された。そのものは城の防御に関するもので、調査地東には大手に関連する遺構が確認されている。本調査地の上に位置する曲輪は平成3年度に小規模なトレンチ調査であったが、焼土や礫石等が確認されており、その曲輪に付随する曲輪と考えられ、池田城の防御性、縄張りが分かる調査であった。



第10図 出土遺物実測図

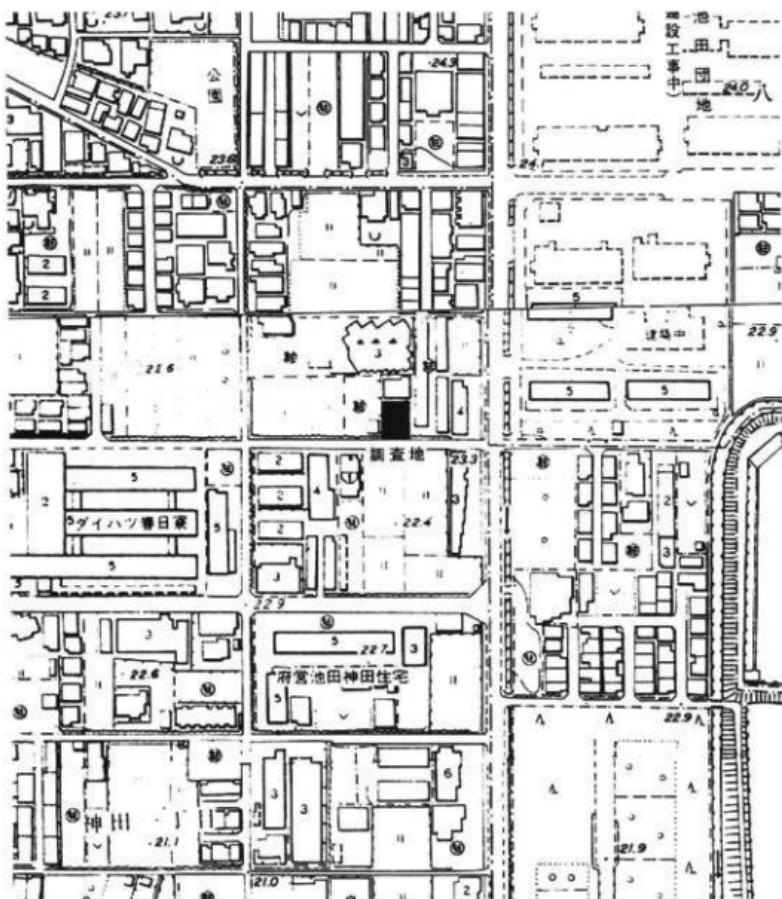


第11図 調査地断面図

III 神田北遺跡第8次発掘調査

はじめに

神田北遺跡は神田1丁目一帯に広がる縄文時代から中世に至る複合遺跡であり、猪名川左岸の標高約20mを測る台地上に位置する。当遺跡は昭和50年に石器が収集されたことに始まる。このことを契機とし、同年、発掘調査がなされ、弥生時代後期の土坑、縄文時代の石器、古墳時代から奈良時代の須恵器等が出土し、縄文時代から奈良時代に至る遺跡であると認識される。



第12図 調査地位置図

ようになった。その後、マンションや個人住宅等の住宅建築に伴う発掘調査が行われ、そのことから、弥生時代後期の堅穴式住居跡、古墳時代の掘立柱建物跡、中世の掘立柱建物跡等が検出され、徐々にあるが遺跡の性格等が明らかになりつつある。今年度に実施されたマンション建設に伴う発掘調査では弥生時代後期の土坑1基、古墳時代後期の堅穴式住居跡1棟、奈良時代の掘立柱建物跡1棟、中世の掘立柱建物跡1棟見つかり、当遺跡より南に位置する奈良時代の掘立柱建物跡が検出された宮の前遺跡や豊島南遺跡との関連が注目される。また、平野部において、弥生時代中期に人が生活を営んだ宮の前遺跡や豊島南遺跡が弥生時代後期になると消滅していく中で、神田北遺跡において、弥生時代後期に関する遺構が著名に残ることは注目される。

神田北遺跡は現在でも田畠は広がり、あまり宅地化がなされていないが、今後マンション・個人住宅等の開発を考えられ、こうした中、今回の発掘調査を実施した。

参考文献

富田好久他「神田複合遺跡について」『池田郷土史研究 第4号』池田郷土史学会 1977

橋高和明『源始・古代の池田』池田市立池田中学校地歴部 1985

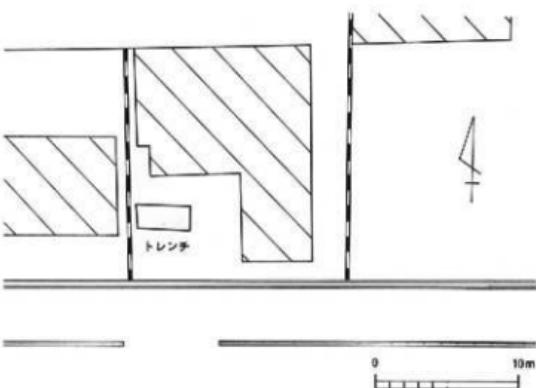
調査の概要

調査地は池田市神田1丁目1355～2・3・4に位置し、個人住宅の増築に伴う立ち会いの結果、ビット等の遺構が検出されたため、増築部分を対象に調査を実施することになった。調査面積は約8m²である。

基本層序は3層からなる。第1層は盛土、第2層は耕作土、第3層は遺構検出面である黄褐色粘質土の地山である。第3層の地山面から極少量の土器片が出土したが、細片のため時期及び種類の確認はできなかった。

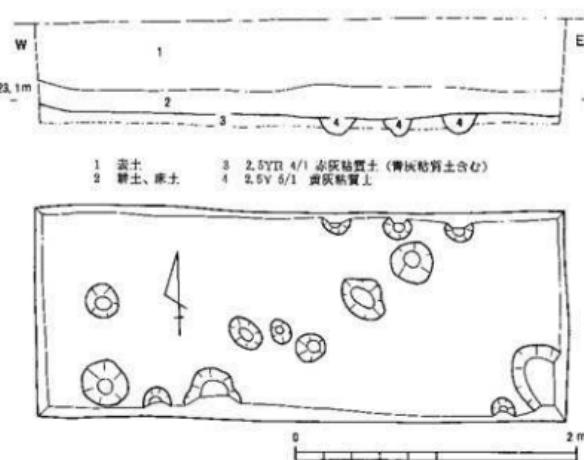
また、この調査地では後世の削平が著しいことから遺物包含層は全く存在していない。

今回の調査において検出した遺構はビットのみで、その深さも5cm前後しかなく、また、これらのビットに伴う遺物はなく時期の判断も難しく、建物跡の復元は調査面積が狭いため明らかではない。しかしながら、本調査地周辺から



第13図 トレンチ位置図

は中世の掘立柱建物跡が検出されていることから、今回検出したピットも掘立柱建物跡に伴うものと考えられる。また、既に検出した中世に関する掘立柱建物跡の軸方向は一定ではなく、このことを留意し今後の調査を実施していく必要がある。



第14図 トレンチ平・断面図



(1) 調査地現状（南から）



(2) 調査地現状（北から）



(1) 第1トレンチ全景（北東から）



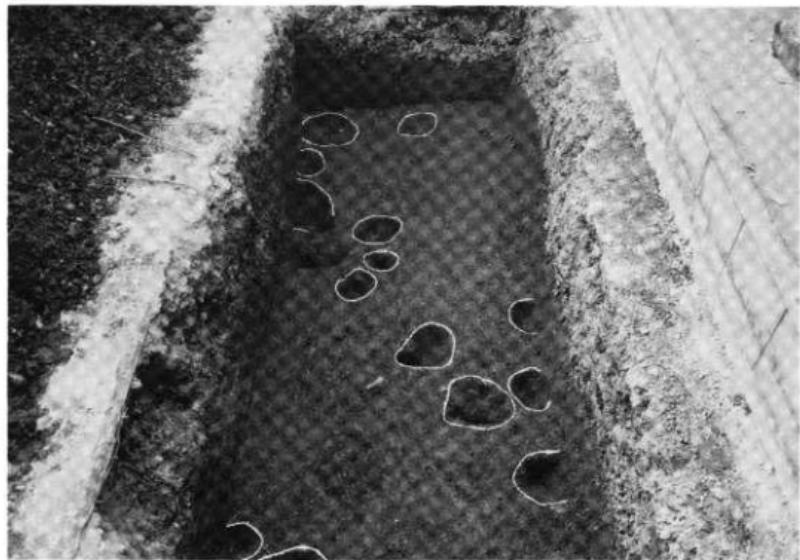
(2) 第1トレンチ南端（東から）



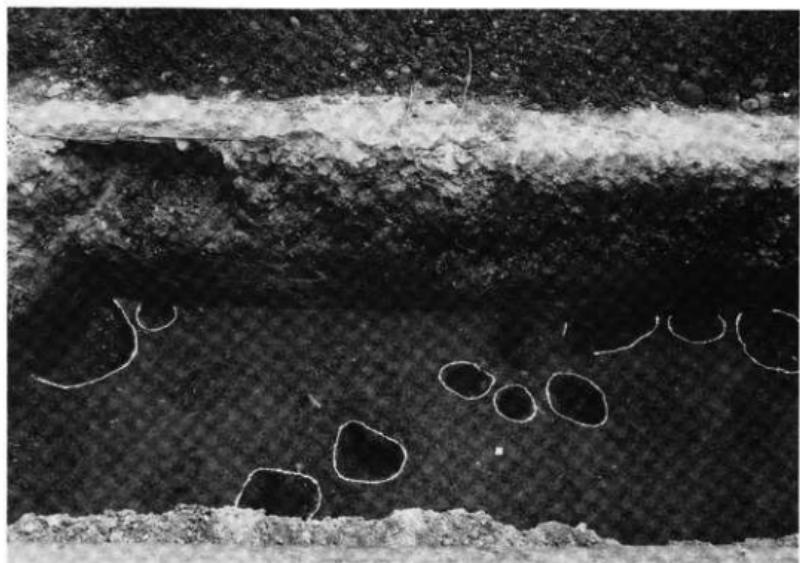
(1) 第2トレンチ（南から）



(2) 第3トレンチ（西から）



(1) トレンチ全景（東から）



(2) トレンチ（南から）

報告書妙録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいはう							
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査報告							
副題名	池田市文化財調査報告第19集							
巻次								
シリーズ名	池田市文化財調査報告							
シリーズ番号	19							
編著者名	中西正和							
編集機関	池田市教育委員会							
所在地	〒563 大阪府池田市城南1丁目1番1号 ☎0727 52 1111							
発行年月日	1994年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	
いけだじょう 池田城	いけだじょう 池田市建石・城山町	279043	一	34度 49分 20秒	135度 36分 00秒	931005 ~ 931028	20m ²	個人住宅新築のための事前調査
こうだきた 神田北	こうだきた 池田市神田	"	一	34度 38分 30秒	135度 36分 00秒	940124 ~ 940127	8m ²	個人住宅増築のための事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記	事項		
池田城	城館・聚落	縄文 ~ 中世	掘切 柵列	土師皿	掘切・柵列等の検出により防御性が強い曲輪である。			
神田北	聚落	縄文 ~ 中世	ピット	土師器	ピット等を検出したが建物跡の復元はできなかった。			

池田市文化財調査報告第19集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報

1993年度

1994年3月

発行 池田市教育委員会

池田市城南1-1-1

編集 社会教育課 文化財係

印刷 西村印刷株式会社